

C O N T E N T S

- 01 トップインタビュー
- 05 特集 メイコー 40年間の歩み
- 07 連結財務データ
- 09 グローバルネットワーク
- 10 コーポレートデータ

裏表紙 株主メモ・ホームページのご案内



株主の皆様におかれましては、平素より当社の事業につきまして格別のご支援とご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社第42期(2017年3月期)第2四半期MEIKO REPORTをお届けするにあたり、当期の事業の状況と今後の経営戦略についてご説明いたします。

代表取締役社長 **片岡 隆一**

最高の価値とサービス 電子回路基板メーカー

1 当第2四半期の事業環境と業績についてお聞かせください。

売上、営業利益は好調に推移したが、円高による為替差損が経常利益に影響

当社グループを取り巻く事業環境として、米国では雇用の堅調な拡大や家計支出の伸びに支えられ、欧州においても個人消費が回復し英国のEU離脱決定の影響も当面軽微であるとの見方によって緩やかな成長がみられました。また中国を中心としたアジア諸国では、中国政府の構造問題への取り組みや財政面での対策等により大幅減速の懸念は薄らいでいます。また国内経済においても、個人消費や企業業績等に改善がみられ緩やかな回復基調にありましたが、円高の急激な進行による企業業績の下方修正等の影響もあり、景気は先行き不透明な状況にあります。

当社グループの主要な取引先である自動車業界におきましては、世界的に好調な自動車需要を背景にエレクトロ

2016年度上期 連結決算概況

(単位：億円)

	2016年度 上期 実績	2015年度 上期 実績	前年同期比
売上高	457.4	473.5	▲16.1
営業利益	26.6	5.8	+20.8
経常利益	1.4	▲3.1	+4.5
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	▲3.8	▲100.5	+96.7

2016年度上期 決算のポイント

決算概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 売上は好調に推移したが、急激な円高の影響で円換算上前年比3.4%減の457億円 2. 好調な受注により営業利益は前年比20.8億円増の26.6億円(4.6倍) 3. 有利子負債、前期末より53億円削減
ポイント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 車載向け基板は市場の好調を反映し、堅調に推移 2. スマートフォン向け基板は、主要顧客からの受注が好調で大きく伸長 3. 年初からの円高による為替差損が経常利益に影響 4. 利益の増加、フリーキャッシュフローの黒字定着

を提供する としてニーズに応え続けます。

ニクス化の伸びに加え、安全走行やその先にある自動運転への期待も加わり堅調に推移しています。スマートフォンにおきましては、グローバル市場における成長率の鈍化はみられるものの、新興国を中心とした市場において好調に推移しました。また、中国市場では乱立していたメーカーの中から数社が大手に成長する等、市場に変化が起きつつあります。

このような市場環境のもと当社グループでは、米国や中国を中心とした自動車需要の堅調な伸びやエレクトロニクス化の流れによる基板需要の拡大を的確にとらえた販売やADAS(先進運転支援システム)に関わる新商品の販売を積極的におこなうことで売上を拡大しました。またスマートフォン用基板につきましても、グローバルメーカーや中国で成長しているメーカーを顧客として受注を拡大した結果売上は好調に推移しました。

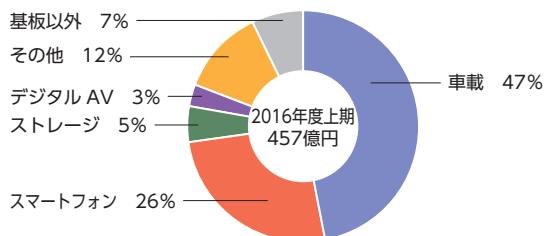
さらに生産や経営面において、一昨年より進めてきた歩

留り改善活動や固定費・販管費削減等の構造改革の効果により、経営体質が強化されつつあります。年初からの円高の進行によって第1四半期では売上高の目減りや、為替差損の計上により経常赤字となりましたが、その後の売上げの増加や構造改革の効果により第2四半期累計では経常利益において黒字に転換することができました。

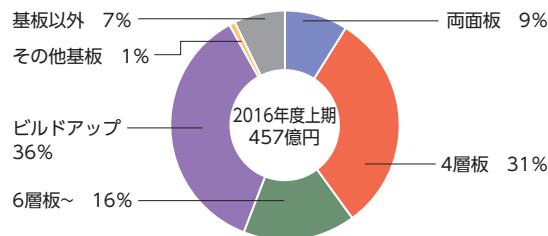
以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、457億4千1百万円(前年同期比3.4%減)と前年同期に比べ16億9百万円の減収となりました。損益面では、営業利益が26億6千3百万円(前年同期比361.8%増)、経常利益が1億4千2百万円(前年同期は経常損失3億8百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失が3億8千3百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失100億4千7百万円)となりました。

電子回路基板別の売上構成

商品別



品目別



2 ベトナムの生産拠点の増強について、その概要と狙いをお聞かせください。

自動車やスマートフォン、モジュール向けなどの成長分野に向けた生産体制を強化

ベトナムに展開する2つの生産子会社、メイコー エレクトロニクス ベトナム(タクタット工場)とメイコー エレクトロニクス タンロン(タンロン工場)の生産規模を増強します。現在スマートフォン向けの受注が好調でフル稼働の状況が続いていますが、これからもさらに受注が増加していく見込みです。また車載向けについても、現在の日系を中心とするお客様に加え、欧米系のお客様も増加させていく計画があり、生産能力不足が予測されます。

さらに、FPC(フレキシブル基板)やEMS(部品実装)事業も強化していく計画ですが、ベトナムはその主要拠点と位置付けています。ベトナム2工場は今後、中国の広州工場と武漢工場とともに、グローバルビジネスに向けた戦略拠点と位置付け、重点的に設備投資を実行していく方針です。

3 下期の経営環境と取組みについてお聞かせください。

今後も成長の期待が大きい車載、安定化していくスマホ市場を軸に次の成長戦略をスタート

下期の経営環境は、スマートフォンはグローバル市場では頭打ちになってきていますが、新興国では成長は続いています。その中では韓国系と米国系の2社がトップを占めています。中国市場では、これまで数百社あった地元スマートフォンメーカーが徐々に絞られてきており、その中でも特に大きくシェアを伸ばした3社が上位を占めるようになってきました。したがって中国市場は混戦から安定した状態になりつつあると見ています。当社グループは、これらシェアが高く勢いのあるメーカーと取引があり、売上利益とも大きく伸ばすことができました。この下期もこれらのメーカーとの関係を軸にスマートフォン向けの高付加価値基板の拡販に努め、安定した収益獲得を目指していきます。

2016年度 連結業績見込

(単位：億円)

	2016年度			2015年度 実績	前年比
	上期 実績	下期 見込	年間 見込		
売上高	457.4	454.6	912.0	952.8	▲40.8
営業利益	26.6	17.4	44.0	33.3	10.7
経常利益	1.4	13.6	15.0	▲4.9	19.9
親会社株主に帰属する当期純利益	▲3.8	14.8	11.0	▲112.5	123.5

また自動車市場は、現在も好調に推移しています。さらに今後はハイブリッドやEVの市場拡大に加え、ADAS(先進運転支援システム)関連、安全運転から将来の自動走行の実用化に向けて市場は大きく広がっており、それに向けて様々な機能が搭載されていくため、電子回路基板の市場も拡大していきます。当社グループでは、今後の新しい市場に向けた様々な機能を実現する基板の研究開発やお客様への提案を積極的に進めています。すでに量産をおこなっている基板や数年後に量産開始が決定しているもの、現在お客様と共同開発をおこなっているもの、現在提案の段階のもの等、様々な基板が動いています。

東日本大震災以降、様々な要因から業績が低迷し、株主の皆様にご心配をおかけしましたが、これまで全社をあげておこなってきた構造改革や生産力の強化の効果が現れて昨年あたりから業績が回復してきました。さらに今後は次なる成長路線をスタートさせていきます。

今後の経営環境

- スマホ市場は、グローバル2強に加え、新興国市場において中華系メーカーの台頭
- 自動車市場は、既存市場の堅調な成長に加え安全走行、自動運転等に向けた新技術の立ち上がり

4

株主の皆様へメッセージをお願いします。

株主の皆様への安定的な配当に向けてグループを挙げて取り組むとともに、持続的な企業価値向上に注力

当社グループの第2四半期の業績から、配当原資となる個別純資産の状況等について検討をした結果、当期の中間配当につきましては、誠に遺憾ながら見送らせていただくことになりました。

株主の皆様におかれましては、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

なお、平成29年3月期の期末配当につきまして、今後の業績見通しが明らかになった時点で改めて公表いたします。

株主の皆様をはじめ、すべてのステークホルダーのご支援、ご期待に応えるべく、次なる成長戦略の施策に全力で取り組み、持続的な企業価値の向上に努めてまいります。今後とも一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2016年度下期 事業推進のポイント

- 成長分野に向けた生産体制を強化
- スマートフォン向け基板事業の持続的成長
- 車載基板顧客の拡大と新領域の開拓

メイコー 40年間の歩み

10月 現社長・名屋佑一郎、名幸電子工業を創業



1月 本社第一工場(旧 本社神奈川工場C棟)開設

9月 新本社事務所および新工場
(現 本社神奈川工場A棟)開設



12月 多層配線基板製造ラインの導入、
製造開始

9月 株式会社山形メイコーを設立

6月 福島県広野町にFBセンター
(福島工場)開設



11月 株式会社山形メイコー内に
ビルドアップ工法による
基板製造用建屋新設

12月 店頭市場
(旧 JASDAQ証券取引所)に
株式公開



昭和49年
1974

昭和51年
1976

昭和55年
1980

昭和57年
1982

平成2年
1990

平成9年
1997

平成12年
2000

高度経済成長に伴い、
自家用車の需要増加。
自動車向けに
両面基板や
多層貫通基板を販売。



アーケードゲーム
「スペースインベーダー」が大流行。
ゲーム機向けに両面基板を販売。

複写機とFAX機能が
一体型となった複合機が
市場に登場。
複合機向けに
多層貫通基板を販売。

デジタルビデオカメラ(松下電器)が発売。
デジタルビデオカメラ向けに
小型の多層貫通基板を販売。



携帯電話「ムーバ」が発売。
携帯電話向けに小型の
多層貫通基板を販売。

スーパーファミコン(任天堂)を
はじめとする家庭用ゲーム機が大流行。
家庭用ゲーム機向けに
多層貫通基板を販売。



さらなる その先に向かって

未来へ

メイコーには、自動車の基板からスマートフォン基板まで幅広い実績と高い技術力があり、その技術を組み合わせて次世代のIoTや自動運転の要求に対応していくことが可能です。高度な技術と新しい発想をもって、より良い社会の実現に貢献していきます。

LED照明の需要増加。
LED照明向けに
高放熱アルミ基板を販売。

環境配慮型自動車の需要増加。
ハイブリッド自動車、電気自動車向け
に大電流対応の厚銅基板を販売。

地上波デジタル放送の
開始に伴い、薄型テレビの
需要増加。
薄型テレビ向けに
ビルドアップ基板を販売。

スマートフォンの需要が高まる。
スマートフォン向けに
10層エニージェット基板を販売。

平成27年
2015

平成26年
2014

平成22年
2010

平成21年
2009

平成18年
2006

平成17年
2005

平成13年
2001

6月 太陽光発電所
「メイコーソーラーパーク福島」
開設



7月 パナソニックベトナムの敷地内に
Meiko Electronics Thang Long Co.,Ltd.
を設立



12月 ベトナムPCB工場
完成・稼働

10月 ドイツ Schweizer Electronic AG.と資本提携



4月 ベトナムEMS工場稼働

3月 メイコー研究開発センター開設

7月 中国武漢工場完成、
稼働



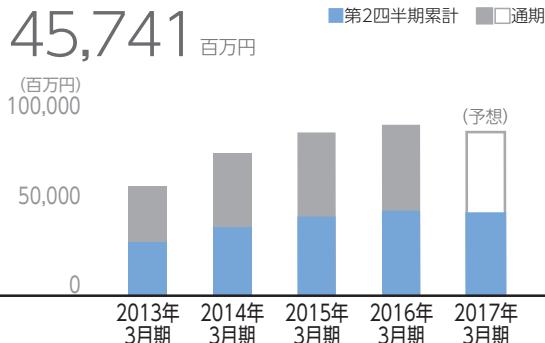
2月 株式会社宮城メイコー事業開始、
宮城工場稼働



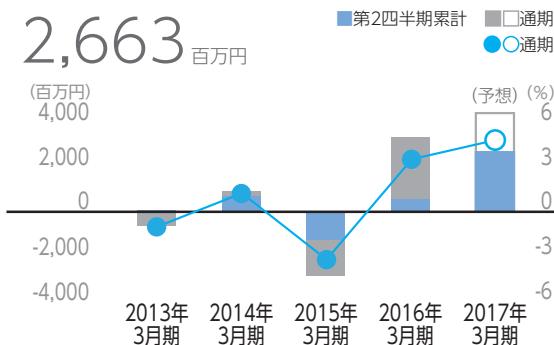
1月 中国広州工場完成、稼働



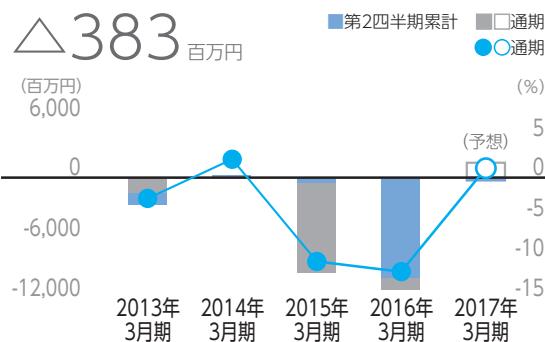
売上高



営業利益 / 営業利益率



四半期(当期)純利益※ / 四半期(当期)純利益率



※「四半期(当期)純利益」は「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」を指します。

連結貸借対照表

(単位: 百万円)

	前期末 2016年3月31日現在	当第2四半期末 2016年9月30日現在
資産の部		
流動資産	55,329	55,346
固定資産	54,275	47,282
有形固定資産	50,733	44,129
無形固定資産	212	223
投資その他の資産	3,329	2,929
資産合計	109,605	102,628
負債の部		
流動負債	41,990	43,043
固定負債	38,851	33,953
負債合計	80,841	76,997
純資産の部		
株主資本	24,578	24,194
資本金	12,888	12,888
資本剰余金	19,745	11,745
利益剰余金	△7,659	△43
自己株式	△396	△396
その他の包括利益累計額	3,925	1,193
その他有価証券評価差額金	32	△38
繰延ヘッジ損益	△337	△236
為替換算調整勘定	4,475	1,690
退職給付に係る調整累計額	△246	△221
非支配株主持分	260	243
純資産合計	28,764	25,631
負債純資産合計	109,605	102,628

財務のポイント

● 連結貸借対照表

総資産は1,026億2千8百万円となり、前期末に比べ69億7千6百万円減少しました。これは流動資産において現金及び預金が5億1千4百万円の減少、たな卸資産が6億4百万円の増加、有形固定資産の66億4百万円減少等によるものであります。

負債は769億9千7百万円となり、前期末に比べ38億4千4百万円減少しました。これは流動負債において支払手形及び買掛金が11億7百万円増加した一方、1年内返済予定の長期借入金が7億円、固定負債において長期借入金47億3千6百万円減少したことによるものであります。

連結損益計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期(累計) 2015年4月1日～ 2015年9月30日	当第2四半期(累計) 2016年4月1日～ 2016年9月30日
売上高	47,351	45,741
売上原価	41,662	38,053
売上総利益	5,689	7,688
販売費および一般管理費	5,112	5,024
営業利益	576	2,663
営業外収益	120	472
営業外費用	1,005	2,993
経常利益	△308	142
特別利益	29	—
特別損失	8,469	59
税金等調整前四半期純利益	△8,749	82
法人税等	1,298	458
四半期純損失(△)	△10,047	△376
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	7
親会社株主に帰属する 四半期純損失(△)	△10,047	△383

純資産は256億3千1百万円となり、前期末に比べ31億3千2百万円減少しましたが、これは為替換算調整勘定の27億8千5百万円減少が主な要因であります。なお、平成28年6月28日開催の定時株主総会の決議により、資本準備金の内80億円をその他資本剰余金に振替え、その他資本剰余金のうち80億円を繰越利益剰余金に振替えております。

● 連結損益計算書

連結損益計算書において、売上高は自動車用とスマートフォン向け等の売上が好調に推移しましたが、年初からの円高の影響を受けて円換算上457億円と前年同期比16億円の減収となりました。

しかしながら損益面では、円高の影響はありましたが、実質的な売上

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期(累計) 2015年4月1日～ 2015年9月30日	当第2四半期(累計) 2016年4月1日～ 2016年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,039	3,453
投資活動によるキャッシュ・フロー	△932	△1,169
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,614	△1,853
現金および現金同等物に係る 換算差額	△151	△947
現金および現金同等物の増減額 (△は減少)	1,340	△517
現金および現金同等物の期首残高	9,490	19,312
連結の範囲の変更に伴う現金および 現金同等物の増減額(△は減少)	363	—
現金および現金同等物の 四半期末残高	11,194	18,795

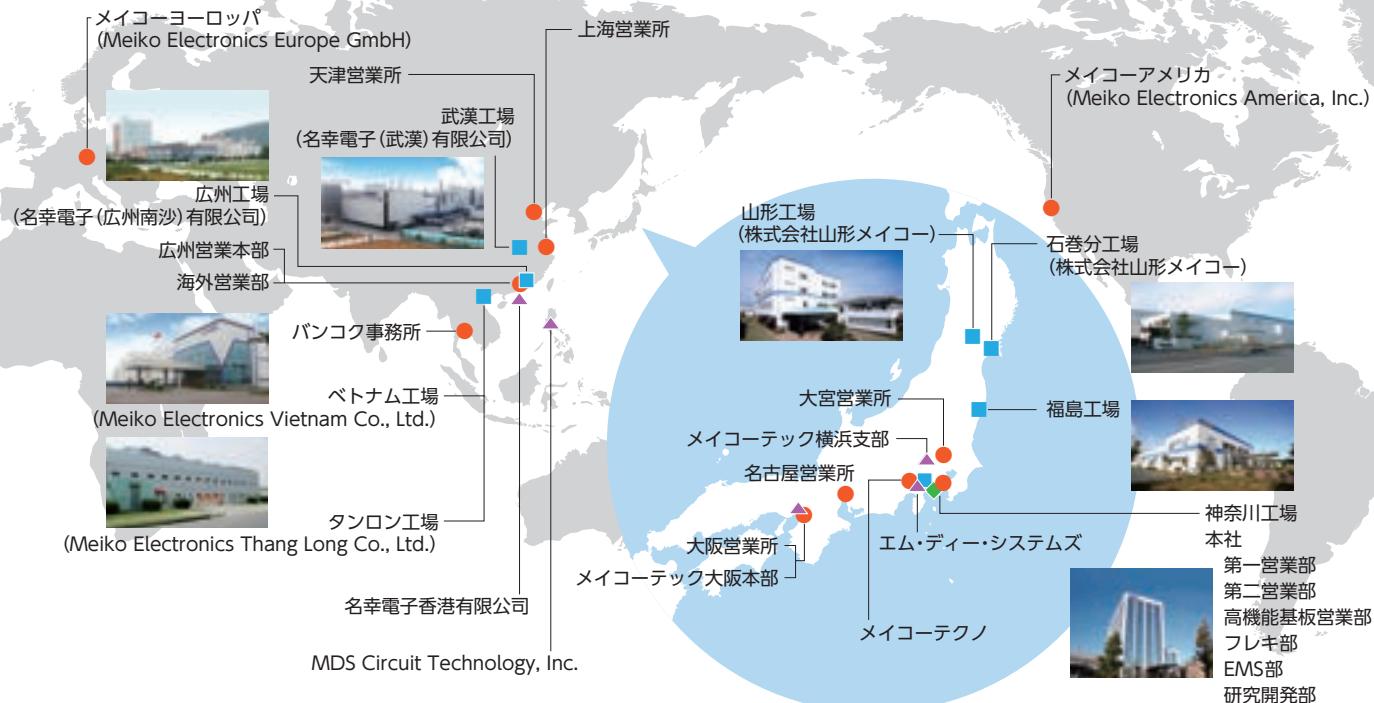
増加と一昨年より進めてきた一連の経営体質強化策の効果により営業利益は26億円と前年同期比4.6倍と大きく改善し、経常利益も黒字に転換することができました。

● 連結キャッシュ・フロー計算書

営業活動によるキャッシュ・フローは34億5千3百万円の資金の増加となりました。一方投資活動による資金の減少は、11億6千9百万円となっております。これは主に有形固定資産の取得によるものであります。また財務活動については18億5千3百万円の資金の減少となりました。これは長期借入金返済による支出61億1百万円、短期借入金の純増額11億5千2百万円および、長期借入れによる収入28億8千7百万円によるものであります。

グローバルな顧客ニーズに応える メイコーの生産・販売体制

■ 生産拠点 ◆ 研究開発 ● 販売拠点 ▲ 関連会社



MANAGEMENT VOICE

VOL.1

常勤監査役
伊豫本 齊

会社の健全で持続的な成長を願い、現場に近い監査と助言、および執行側との率直な意見交換、の二つを心がけてまいりました。当社はこの数年大きな浮沈を経験しましたが、今期に入ってからは、業績は順調に回復しております。製造・営業・管理部門が一丸となって構造改革に取り組んだ成果が出たものと考えております。監査役として注視してきた内部統制面でも、課題に対して着実に手が打たれつつあります。

今後も、当社が企業価値を高め株主の皆様のご期待に沿えるよう、執行側とともに努めてまいります。引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。



会社概要

商号	株式会社メイコー
設立	1975年11月25日
本店所在地	神奈川県綾瀬市大上5-14-15
資本金	12,888百万円
従業員数	10,453名(連結) (国内792名)(海外9,661名)
主な事業内容	電子回路基板等の設計、製造販売およびこれらの付随業務の電子関連事業

役員

(2016年6月28日現在)

代表取締役社長執行役員	名屋 佑一郎
取締役	名屋 精一
取締役専務執行役員	平山 隆英
取締役専務執行役員	篠崎 政邦
取締役	Maren Schweizer
取締役	申 允浩
取締役	中野 創
常勤監査役	伊豫本 齊
監査役	砂田 有史
監査役	原田 隆

関連会社

株式会社山形メイコー	電子回路基板の製造
株式会社エム・ディー・システムズ	電子回路基板の設計
株式会社メイコーテック	電子回路基板の販売
株式会社メイコーテクノ	電子関連事業
名幸電子(広州南沙)有限公司	電子回路基板の製造販売
名幸電子(武漢)有限公司	電子回路基板の製造販売
名幸電子香港有限公司	電子回路基板の販売
Meiko Electronics Vietnam Co., Ltd.	電子回路基板の製造販売
Meiko Electronics Thang Long Co., Ltd.	電子回路基板の製造
MDS Circuit Technology, Inc.	電子回路基板の設計
Meiko Electronics America, Inc.	電子回路基板の販売
Meiko Electronics Europe GmbH	電子回路基板の販売

株式情報

発行可能株式総数	(普通株式)	70,000,000株
	(A種優先株式)	50株
発行済株式の総数	(普通株式)	26,174,076株
	(自己株式 629,244株を除く)	
	(A種優先株式)	50株
株主数	(普通株式)	5,689名
	(A種優先株式)	1名

大株主

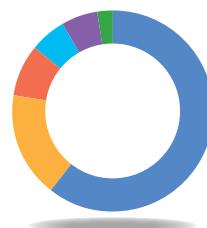
(普通株式)			
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)	
名屋 佑一郎	4,702	18.0	
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	705	2.7	
PLEASANT VALLEY	631	2.4	
名幸興産株式会社	608	2.3	
有限会社ユーホー	521	2.0	
名屋 晴行	488	1.9	
BARCLAYS BANK PLC A/C CLIENT SEGREGATED A/C PB CAYMAN CLIENTS	476	1.8	
名屋 精一	444	1.7	
香川 立男	417	1.6	
HILLCREST, L.P.	379	1.5	

※当社は、自己株式 629,244株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。
また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

(A種優先株式)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
地域中核企業活性化投資事業有限責任組合 無限責任組合員 REVIC パートナース株式会社	50	100.0

所有者別株式分布状況(普通株式)



個人・その他	60.6%
外国法人等	16.9%
金融機関	8.4%
その他の法人	5.8%
金融商品取引業者	6.0%
自己名義	2.3%

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

基準日 期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
および特別口座 三井住友信託銀行株式会社
の口座管理機関

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎ 0120-782-031

上場証券取引所 東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)

公告の方法 電子公告により当社ウェブサイトに掲載
<http://www.meiko-elec.com/ir/pa.shtml>
ただし、事故その他やむを得ない事由によ
って電子公告をすることができない場
合は、日本経済新聞に掲載

株式に関するお問合せ

- 住所変更、配当金受取り方法の変更等のお手続きは、お取引の証券会社にお問合せください。
- 証券会社の口座をご利用でない株主様、未払配当金のお手続きは、左記三井住友信託銀行にお問合せください。

ホームページ
をリニューアル
いたしました。



TOPページ



CSR報告書

💡 当社ホームページでは最新のIR情報、ニュースリリースの他、製品紹介やCSR情報もご覧いただけます。当社ホームページもご活用ください。

マイコー

検索

<http://www.meiko-elec.com/>



株式会社 **メイコー**

本社 〒252-1104 神奈川県綾瀬市大上5-14-15
TEL : 0467 (76) 6001 (大代表)

ホームページ <http://www.meiko-elec.com/>

見直しに関する注意事項

本報告書に記載されている情報につきましては、当社の計画、業績など将来の見直しに関する記述が含まれており、これらの記述は、その時点で入手可能な情報および当社が合理的であると判断する一定の前提条件に基づいています。実際の業績は、さまざまな要素により、これらと異なる結果となり得ることをご承知おきください。



この冊子は環境保全のため、植物油インキとFSC®認証紙を使用しています。
見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。